

全国 検数労連

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港
福会館 5階
Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
メール roren@kensu.jp
ホームページ http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局



7月3日(火)第6回 検数労連18夏季一時金闘争 14:00~14:30 18夏季一時金闘争、妥結を表明

支給日7月10日(火)を確認!

【日検協会に対する各地域の意見】

【評価点】

- ①昨冬比プラス回答。
- ②乗率2ヶ月の維持。
- ③都市加算の満額回答。

【不満点】

- ①昨夏比マイナス回答。
- ②要求していない業績加算。
- ③日頃の業務協力に対する対価が少ない。



【全日検に対する各地域の意見】

【評価点】

- ①昨夏比プラス回答。
- ②ここ数年、右肩上がりの回答。
- ③乗率が昨夏比0.228カ月アップ。

【不満点】

- ①要求との関係では不満
- ②調整加算を根拠とする地域格差。
- ③離職者を抑止するだけの支給額になっていない。
- ④特別評価は不要。

18夏季一時金要求について、現到達をもって妥結する。今夏季一時金交渉は、両協会ともに平成29年度下期事業収益が対前年比増のもとでの交渉となった。組合は、第1回交渉で要求提出以降、第5回交渉における機関手続き表明までの間、『安定した一時金の確保に向けて要求に沿った回答を提示するよう交渉

【態度表明】

前回の交渉で組合は両協会に対し、18夏季一時金闘争の收拾に向けた機関手続きに入る旨を表明し、各地域闘争委員会に『中間見解』に対する意見を求めました。その結果、全ての地域より『18夏季一時金中間見解』に対する批准、または一任を受け、第6回交渉で正式に妥結の態度表明を行いました。

このような回答状況のもと、各地域からの一時金に対する職場の意見まとめでは、

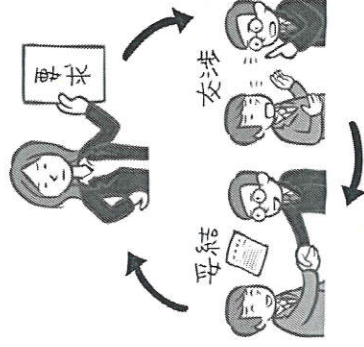
回答額は、人量不足の中で奮闘している職場の思いは充分に反映されるものではなかった。具体的には、両協会ともに昨夏比マイナス回答となったが、全日検においては全国的な格差、日検協会も多数の支部が総額で昨夏比を下回る結果となった。さらに、組合が求めている全日検の『役付・特別評価・調整』、日検協会の『業績』、諸要求についても原資を伴う課題であり困難、国民的課題に対する態度表明も理解が得られなく不満を残す結果となった。

の中で繰り返し強調してきた。同時に『人量不足の中で働き方に対する正当な評価』としての一時金回答を強く求めてきた。

今夏季一時金回答を受け、日常的な取り組みである『仕事と収入の確保』への組合員のたゆまぬ努力により得られた収益によって、単に事業収益の増減による全国格差や乱高下をせることは、組合員の安定的な生活基盤を奪うばかりか働く意欲さえも奪いかねない事態

全日検の昨夏比プラス回答、日検協会の乗率2ヶ月維持、要求に沿った都市手当などの評価点が出された。一方、収益動向を前面に押し出した全国的な格差回答や総額で昨夏比大きく下回ることへの不満点などの意見が数多く上がったが、全地域から夏季一時金闘争全般に対する一定の理解が寄せられた。

次の問題点を提起する。



以上

に発展することが懸念される。引き続き、従業員全体の『生活の安定』を第一義に捉えながら、両協会の経営方針である『品質向上活動』と組合方針である『仕事と収入の確保』運動を合致させた労使の積極的な取り組みで企業基盤を強化していくことが求められる。

各地域闘争委員会の皆様、18春闘から連動して行われた今夏季一時金闘争おつかれさまでした。